

1. 建設投資の概況

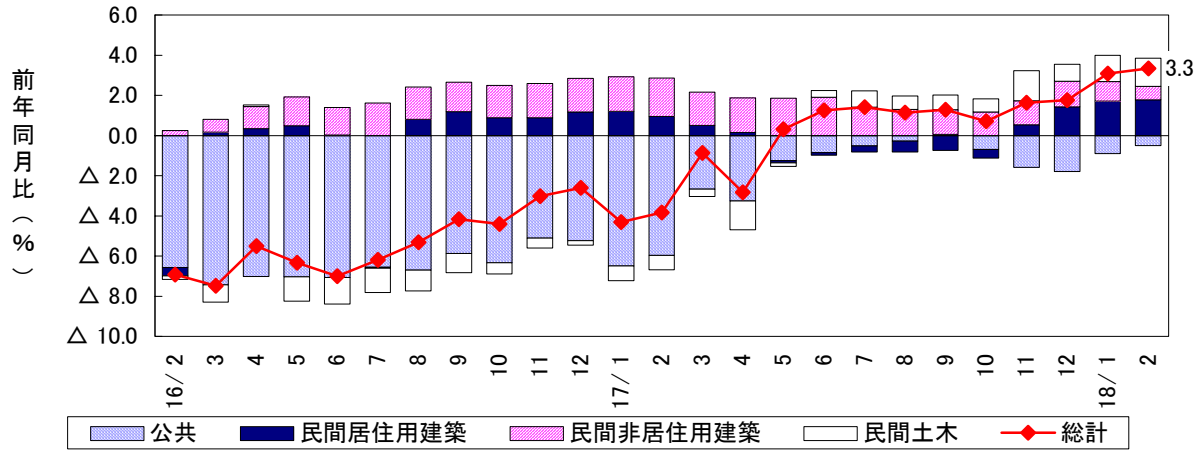
(1) 建設総合統計（出来高）

2月の建設総合統計を出来高でみると、全体で4兆4,141億円と対前年同月比3.3%増加した。

公共は、建築が2,023億円（前年同月比12.1%減）、土木が1兆5,422億円（同0.4%増）となり、全体では1兆7,445億円（同1.2%減）となった。

民間は、建築が2兆1,666億円（同5.1%増）、土木が5,030億円（同13.5%増）となり、全体では2兆6,696億円（同6.6%増）となった。

建設総合統計(出来高ベース)の伸びと寄与度



(単位：億円)

区分		総計	民間	建築		土木	公共	
				居住用	非居住用			
年度年月								
年	15年度	553,431	317,379	257,091	182,294	74,798	60,288	236,052
	16年度	529,330	326,160	269,803	186,261	83,542	56,357	203,170
月次	17年 11月	50,681	30,610	24,992	16,923	8,069	5,619	20,071
	12月	52,307	31,108	25,452	17,336	8,116	5,656	21,199
	18年 1月	41,319	24,409	20,020	13,565	6,455	4,389	16,910
	2月	44,141	26,696	21,666	14,546	7,121	5,030	17,445

(対前年比、%)

年度		総計	民間	建築	居住用	非居住用	土木	公共
年	15年度	△ 6.3	0.4	0.1	△ 0.2	0.9	1.7	△ 14.1
	16年度	△ 4.4	2.8	4.9	2.2	11.7	△ 6.5	△ 13.9
月次	17年 2月	△ 3.8	3.9	6.6	3.1	14.2	△ 6.8	△ 13.0
	3月	△ 0.9	3.3	5.0	1.7	12.4	△ 3.0	△ 5.9
	4月	△ 2.8	0.7	3.8	0.5	11.2	△ 12.1	△ 8.4
	5月	0.3	2.3	3.1	△ 0.3	10.7	△ 1.6	△ 4.0
	6月	1.3	3.1	3.1	△ 0.3	11.1	3.0	△ 2.7
	7月	1.4	2.9	2.0	△ 0.7	8.3	7.4	△ 1.6
	8月	1.1	2.2	1.4	△ 1.4	7.9	6.4	△ 0.8
	9月	1.3	2.0	0.9	△ 2.0	7.8	7.1	0.1
	10月	0.7	2.3	1.5	△ 1.2	7.7	6.4	△ 1.7
	11月	1.6	5.6	3.6	1.6	8.0	15.5	△ 3.8
	12月	1.8	6.2	5.8	4.4	8.7	8.3	△ 4.2
	18年 1月	3.1	7.0	5.7	5.3	6.5	13.5	△ 2.1
2月	3.3	6.6	5.1	5.5	4.2	13.5	△ 1.2	
累計	4月~2月	1.2	3.7	3.2	0.9	8.3	6.1	△ 2.8

資料：国土交通省「建設総合統計」

注)平成12年度以降のデータに対して、遡及して計算結果等の見直しを行っている。

(2) 公共機関からの受注工事

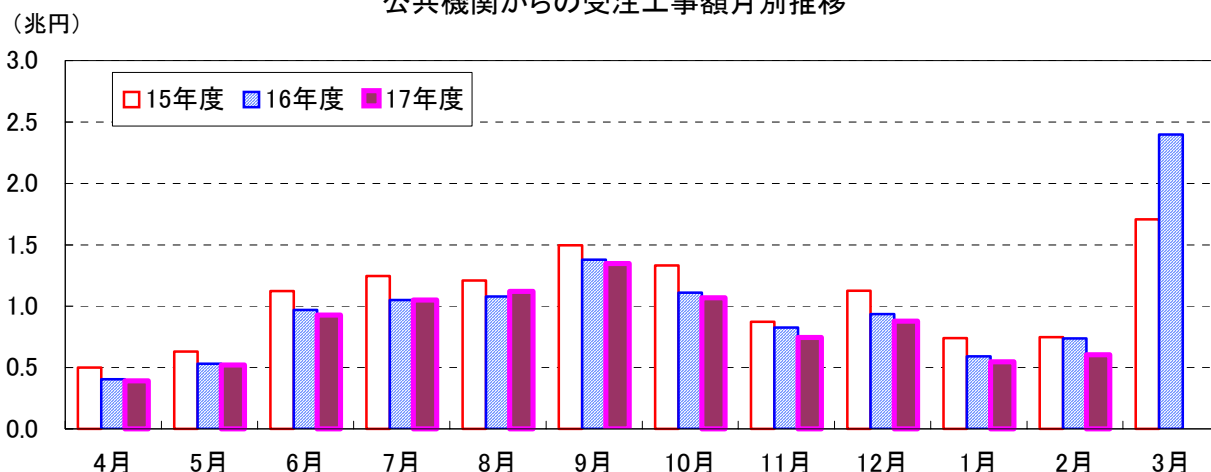
2月の公共機関からの受注工事額（1件あたり500万円以上の工事が対象。以下同じ。）は、国の機関2,121億円（前年同月比25.9%減、5ヶ月連続）、地方の機関3,915億円（同12.2%減、4ヶ月連続）となり、全体で6,035億円（同17.5%減、6ヶ月連続）となった。

工事分類別で見ると、鉄道・軌道（同367.2%増、寄与度+3.0）、庁舎（同8.4%増、寄与度+0.1）等が増加し、道路（同15.7%減、寄与度-5.9）、教育・病院（同43.7%減、寄与度-4.7）等が減少した。

さらに発注機関・工事分類別で見ると、国以外の機関の道路（寄与度-4.8）、国のその他（寄与度-2.7）等のマイナスの寄与度が大きい。

2月の大手50社調査では、公共工事は前年同月比12.5%減少（2ヶ月連続）した。

公共機関からの受注工事額月別推移

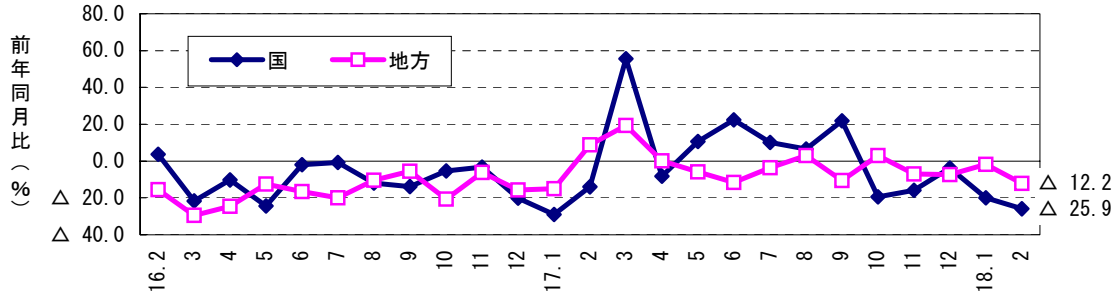


公共機関からの受注工事（対前年比、%）

区分 年度年月		総計	国の機関			地方の機関				
			小計	国	国以外の機関	小計	都道府県	市区町村	地方公営企業	その他
年	14年度	△ 8.1	△ 11.2	△ 2.9	△ 21.9	△ 6.7	△ 6.2	△ 5.6	△ 10.6	△ 13.1
	15	△ 17.5	△ 14.3	△ 18.8	△ 6.9	△ 19.0	△ 22.4	△ 15.0	△ 22.1	△ 20.5
	16	△ 5.6	4.1	7.9	△ 1.4	△ 10.4	△ 9.8	△ 10.9	△ 6.3	△ 15.2
月	17年2月	△ 1.5	△ 14.1	△ 10.4	△ 18.6	8.8	△ 4.0	15.3	70.1	△ 3.1
	3	40.5	55.6	84.3	△ 3.5	19.3	22.6	21.8	6.2	2.0
	4	△ 3.3	△ 8.2	7.9	△ 32.4	0.1	23.7	△ 6.2	△ 39.8	△ 25.5
	5	△ 1.6	10.6	16.8	3.5	△ 5.9	△ 7.2	0.5	△ 4.0	△ 65.4
	6	△ 4.1	22.3	6.4	35.0	△ 11.6	6.2	△ 18.2	△ 29.4	△ 22.9
	7	0.1	10.2	28.1	△ 1.9	△ 3.6	17.6	△ 18.9	86.4	△ 31.6
	8	3.9	6.5	23.2	△ 7.6	3.1	6.8	2.8	△ 6.2	△ 15.3
	9	△ 2.1	21.9	42.1	2.5	△ 10.6	△ 10.8	△ 8.7	13.1	△ 48.1
	10	△ 3.8	△ 19.5	△ 7.6	△ 33.2	3.0	△ 10.9	8.2	70.6	58.7
	11	△ 9.7	△ 15.8	4.4	△ 29.6	△ 7.0	△ 9.7	△ 15.1	39.9	39.8
次	12	△ 6.3	△ 3.8	△ 9.5	3.9	△ 7.3	△ 4.5	△ 16.4	59.7	△ 42.4
	18年1月	△ 7.5	△ 20.0	△ 23.2	△ 15.5	△ 1.8	△ 2.2	2.8	7.0	△ 42.7
	2	△ 17.5	△ 25.9	△ 18.3	△ 36.5	△ 12.2	△ 13.3	△ 19.1	9.2	△ 4.3
累計	4月～2月	△ 4.3	△ 2.1	5.9	△ 10.3	△ 5.1	△ 2.4	△ 9.1	18.7	△ 23.9

資料：国土交通省「建設工事受注動態統計調査」

機関別受注工事額の推移



政府建設投資関連指標

(実数、億円)

	公共機関からの受注工事				前払請負額 (※)	出来高 (総合統計)	公的固定資本形成
	総計	[国の機関]	[地方の機関]	大手50社			
15年度	127,314	41,531	85,783	30,400	154,589	236,052	271,247
16	120,127	43,227	76,900	30,111	137,354	203,170	240,219
17年Ⅰ期	37,266	20,268	16,999	13,699	29,212	55,457	65,762
Ⅱ	18,423	5,678	12,744	3,722	35,392	37,675	47,476
Ⅲ	35,193	10,429	24,763	7,715	37,857	45,040	56,098
Ⅳ	26,937	7,420	19,517	5,521	30,614	60,494	70,347
17年9月	13,483	4,379	9,104	3,422	14,149	17,213	
10	10,686	2,688	7,998	2,057	12,379	19,224	
11	7,465	2,106	5,359	1,354	9,610	20,071	
12	8,786	2,627	6,159	2,110	8,625	21,199	
18年1月	5,475	1,476	3,999	995	6,175	16,910	
2	6,035	2,121	3,915	1,720	6,055	17,445	

(対前年比、%)

	公共機関からの受注工事				前払請負額 (※)	出来高 (総合統計)	公的固定資本形成
	総計	[国の機関]	[地方の機関]	大手50社			
15年度	△ 17.5	△ 14.3	△ 19.0	△ 12.0	△ 13.7	△ 14.1	△ 9.3
16	△ 5.6	4.1	△ 10.4	△ 0.9	△ 11.1	△ 13.9	△ 11.4
17年Ⅰ期	16.7	27.0	6.4	23.9	△ 5.5	△ 10.7	△ 15.9
Ⅱ	△ 3.3	9.3	△ 8.0	0.2	△ 6.4	△ 5.4	△ 2.3
Ⅲ	0.4	13.6	△ 4.3	14.7	△ 3.0	△ 0.7	1.9
Ⅳ	△ 6.3	△ 13.4	△ 3.3	△ 7.6	△ 2.2	△ 3.3	△ 0.7
17年2月	△ 1.5	△ 14.1	8.8	△ 14.0	△ 3.2	△ 13.0	
3	40.5	55.6	19.3	53.1	△ 3.1	△ 5.9	
4	△ 3.3	△ 8.2	0.1	10.2	△ 11.3	△ 8.4	
5	△ 1.6	10.6	△ 5.9	5.8	△ 0.4	△ 4.0	
6	△ 4.1	22.3	△ 11.6	△ 6.8	△ 4.7	△ 2.7	
7	0.1	10.2	△ 3.6	11.5	△ 12.7	△ 1.6	
8	3.9	6.5	3.1	0.7	△ 0.2	△ 0.8	
9	△ 2.1	21.9	△ 10.6	27.7	4.1	0.1	
10	△ 3.8	△ 19.5	3.0	1.0	△ 1.4	△ 1.7	
11	△ 9.7	△ 15.8	△ 7.0	△ 28.9	△ 0.9	△ 3.8	
12	△ 6.3	△ 3.8	△ 7.3	3.8	△ 4.7	△ 4.2	
18年1月	△ 7.5	△ 20.0	△ 1.8	△ 36.4	△ 6.8	△ 2.1	
2	△ 17.5	△ 25.9	△ 12.2	△ 12.5	△ 8.3	△ 1.2	
17年度累計	△ 4.3	△ 2.1	△ 5.1	△ 1.3	△ 4.3	△ 2.8	

資料：国土交通省「建設工事受注動態統計調査」、内閣府「四半期別国民所得統計速報」

北海道建設業信用保証(株)・東日本建設業保証(株)・西日本建設業保証(株)「公共事業前払保証統計」

注)公的固定資本形成は、名目、原系列値。

(※)公共機関からの受注工事が請負契約時点ベースでの請負契約の全体額を計上しているのに対し、前払請負額は前払保証契約時点ベースでの前払保証の対象となる請負金額を計上している等の理由により、必ずしも両者の傾向は一致しない。

(3) 住宅

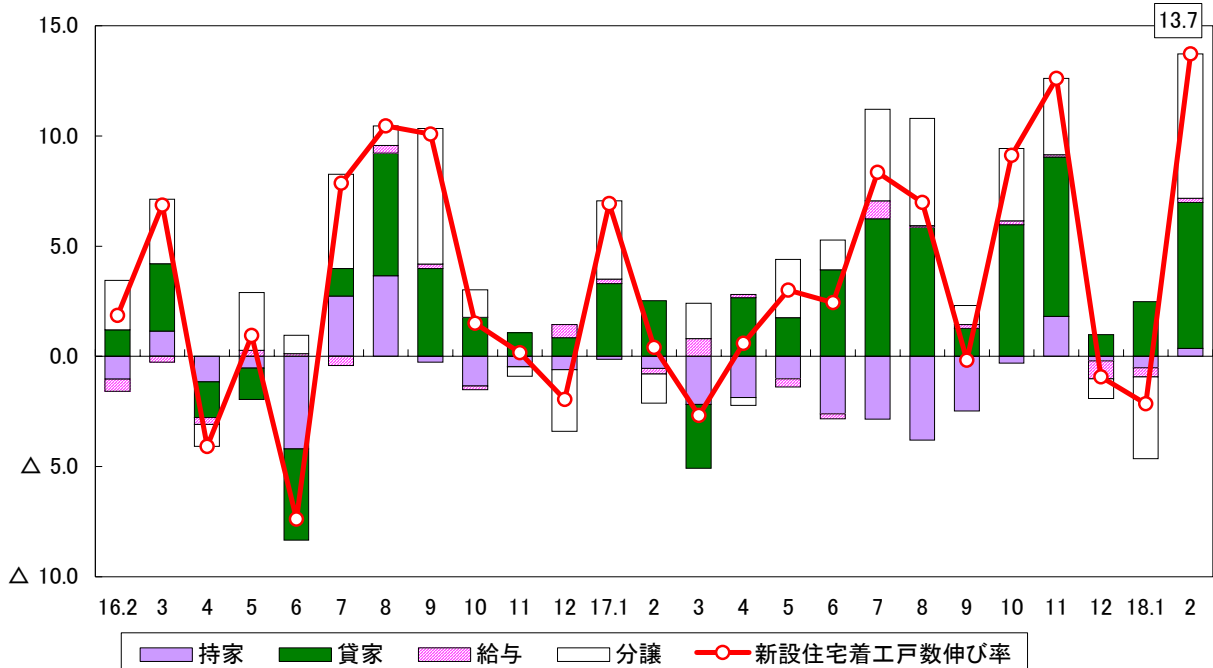
2月の着工は96,995戸。対前年同月比で見ると、持家、貸家、分譲住宅ともに増加したため、全体で13.7%増加（3ヶ月ぶり）した。

季節調整済年率換算値の推移をみると、平成17年1-3月期1,208千戸（前期比2.2%増）、4-6月期1,195千戸（同1.1%減）、7-9月期1,274千戸（同6.7%増）、10-12月期1,265千戸（同0.8%減）、平成18年1月1,259千戸（同7.7%増）、2月1,334千戸（同6.0%増）となった。

新設住宅着工戸数（戸、対前年比・%）

区分		総戸数	総計	持家		貸家	分譲住宅		季節調整値 (年率換算) 総戸数 (千戸)
年度年月	公庫 融 資			マ ン シ ョ ン					
年 度	14年度	1,145,553	△ 2.4	△ 3.1	△ 56.7	2.8	△ 8.1	△ 11.0	
	15	1,173,649	2.5	2.1	△ 31.5	0.9	5.6	2.0	
	16	1,193,038	1.7	△ 1.6	△ 52.2	1.9	4.6	2.5	
月 次	17年2月	85,288	0.4	△ 1.8	△ 58.4	6.7	△ 4.2	△ 8.6	1,174
	3	90,789	△ 2.7	△ 6.8	△ 57.1	△ 7.6	5.6	14.5	1,177
	4	96,740	0.6	△ 5.5	△ 50.4	7.2	△ 1.3	△ 3.5	1,160
	5	101,862	3.0	△ 3.1	△ 39.8	4.6	9.5	17.1	1,212
	6	109,184	2.4	△ 7.7	△ 42.5	10.3	5.0	10.9	1,224
	7	115,343	8.3	△ 8.5	△ 43.2	17.3	14.0	25.9	1,309
	8	109,199	7.0	△ 10.9	△ 38.7	15.3	18.7	38.9	1,272
	9	108,086	△ 0.2	△ 8.1	△ 31.7	3.3	2.9	6.4	1,248
	10	115,822	9.1	△ 1.1	△ 23.0	14.6	11.0	18.4	1,282
	11	110,986	12.6	6.4	△ 6.7	17.0	12.2	19.7	1,303
	12	97,932	△ 0.9	△ 0.8	△ 15.1	2.3	△ 3.1	△ 2.7	1,169
	18年1月	92,899	△ 2.2	△ 2.1	△ 17.5	6.2	△ 10.8	△ 16.6	1,259
	2	96,995	13.7	1.2	△ 32.9	16.5	21.5	38.1	1,334
累計	4月～2月	1,155,048	4.8	△ 4.2	△ 34.5	10.4	6.9	12.6	—

新設住宅着工戸数の伸びと利用関係別寄与度



資料:国土交通省「建築着工統計調査」

<持家>

2月の着工は 24,923 戸。東北、北陸、中国、四国では減少、その他の地域では増加し、全体では前年同月比 1.2%増加（3ヶ月ぶり）した。

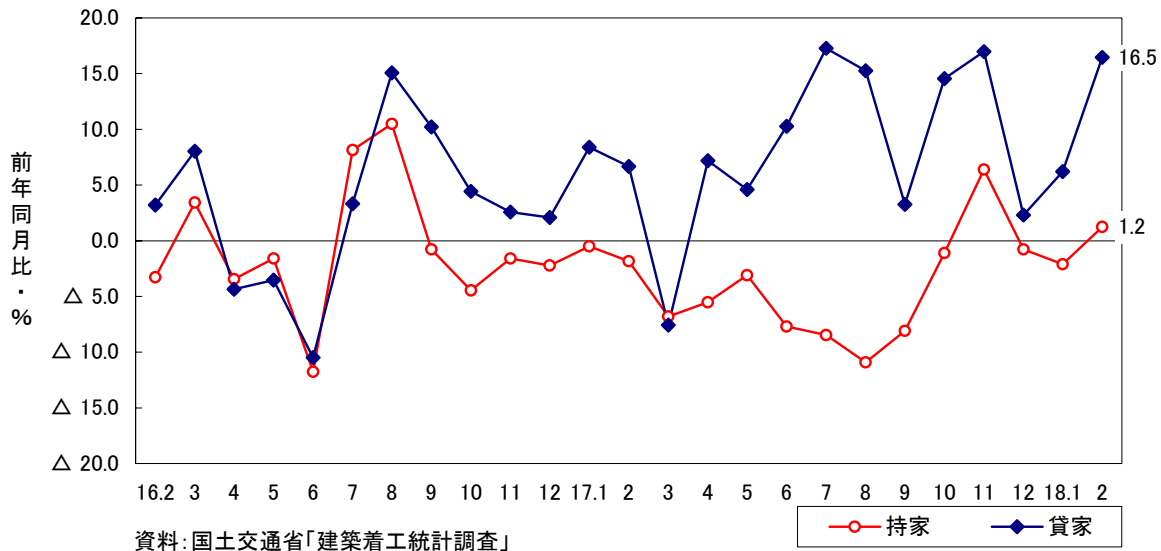
<貸家>

2月の着工は 39,949 戸。北海道、北陸では減少、その他の地域では増加し、全体では前年同月比 16.5%増加（11ヶ月連続）した。

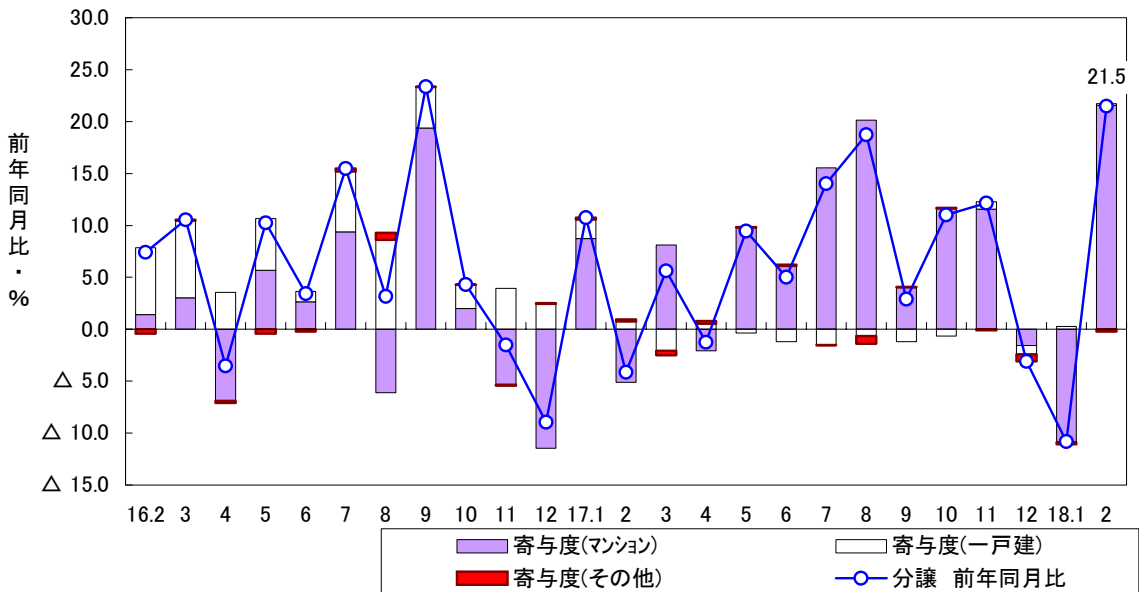
<分譲>

2月の着工は 31,602 戸。北海道、東北、沖縄では減少、その他の地域では増加し、全体では前年同月比 21.5%増加（3ヶ月ぶり）した。マンションは 20,318 戸で、首都圏（10,264 戸、前年同月比 29.8%増、先月の減少から再び増加）は増加、中部圏（1,143 戸、同 52.8%増、3ヶ月ぶり）は増加、近畿圏（3,394 戸、同 92.5%増、2ヶ月連続）は増加、その他の地域（5,517 戸、同 28.7%増、3ヶ月ぶり）は増加し、全体では同 38.1%増加（3ヶ月ぶり）した。一戸建住宅は 11,163 戸で、同 0.4%増加（2ヶ月連続）した。

持家・貸家着工の推移



分譲住宅着工戸数に占めるマンション、一戸建寄与度の推移



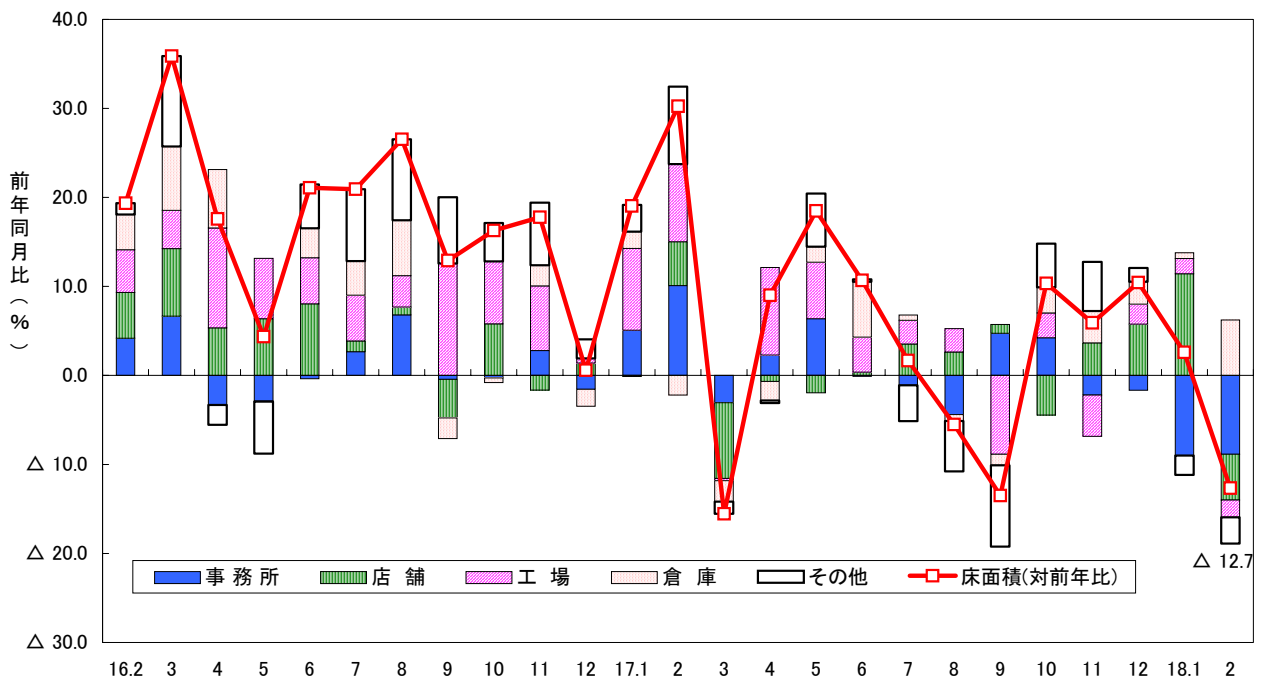
(4) 民間非居住建築

2月の着工床面積は490万㎡で前年同月比12.7%減少(5ヶ月ぶり)した。

着工床面積を用途別にみると、事務所は46万㎡で前年同月比52.0%減少(4ヶ月連続)、店舗は86万㎡で同25.1%減少(4ヶ月ぶり)、工場は110万㎡で同9.0%減少(3ヶ月ぶり)、倉庫は80万㎡で同77.3%増加(5ヶ月連続)した。

日本銀行「全国企業短期経済観測調査」(平成18年3月実施)で平成18年度の設備投資計画をみると、製造業(大企業)は前年度比4.8%増加(平成17年度同16.9%増加)となり、非製造業(大企業)は同1.6%増加(平成17年度同7.0%増加)となった。また、全産業(大企業)の生産・営業用設備判断DI(過剰-不足)をみると、「最近」は0、「先行き」は-1となり、先行きの設備過剰感は改善傾向にある。

民間非居住用建築物着工床面積の伸びと用途別寄与度



区分		床面積					工事費予定額				
		総計	事務所	店舗	工場	倉庫	総計	事務所	店舗	工場	倉庫
年	14年度	△ 2.9	△ 16.6	23.9	△ 16.4	△ 7.0	△ 9.2	△ 25.2	11.1	△ 20.2	△ 12.8
	15	8.0	11.2	2.5	13.7	9.4	8.8	25.1	△ 5.0	16.8	17.3
	16	13.8	9.6	7.5	36.0	8.8	9.7	7.1	8.5	44.2	5.1
月	17年2月	30.2	83.3	22.7	44.9	△ 17.4	40.2	137.6	24.0	41.3	△ 29.8
	3	△ 15.6	△ 24.6	△ 38.9	△ 1.5	△ 16.7	△ 22.8	△ 44.9	△ 25.8	2.7	△ 22.4
	4	9.0	29.4	△ 3.6	41.1	△ 13.6	11.8	27.8	3.5	26.7	△ 8.7
	5	18.5	61.6	△ 9.0	29.4	13.0	46.5	176.7	22.9	28.4	29.9
	6	10.7	△ 1.0	1.6	19.3	47.2	16.6	14.8	33.9	19.4	43.5
	7	1.7	△ 9.9	20.3	14.3	4.6	6.2	△ 10.1	20.8	35.1	△ 8.3
	8	△ 5.5	△ 30.1	15.5	16.6	△ 5.0	△ 11.4	△ 58.3	8.7	23.7	5.5
	9	△ 13.5	66.5	6.3	△ 37.0	△ 10.7	△ 12.0	89.0	△ 10.0	△ 36.7	△ 4.4
	10	10.3	44.8	△ 20.8	14.3	26.8	17.3	46.7	3.2	16.3	24.0
	11	5.9	△ 20.6	26.5	△ 20.4	29.3	8.3	△ 28.1	21.2	△ 10.3	25.2
	12	10.4	△ 15.7	32.5	11.2	23.5	15.0	0.1	16.1	25.4	16.7
	18年1月	2.6	△ 54.4	97.0	7.1	5.8	△ 7.9	△ 66.3	110.4	5.0	2.9
2	△ 12.7	△ 52.0	△ 25.1	△ 9.0	77.3	△ 18.3	△ 71.4	△ 19.9	14.5	80.5	
累計	4月~2月	2.9	△ 7.9	7.4	6.6	15.3	4.8	△ 15.7	16.4	11.4	16.0

資料：国土交通省「建築着工統計調査」

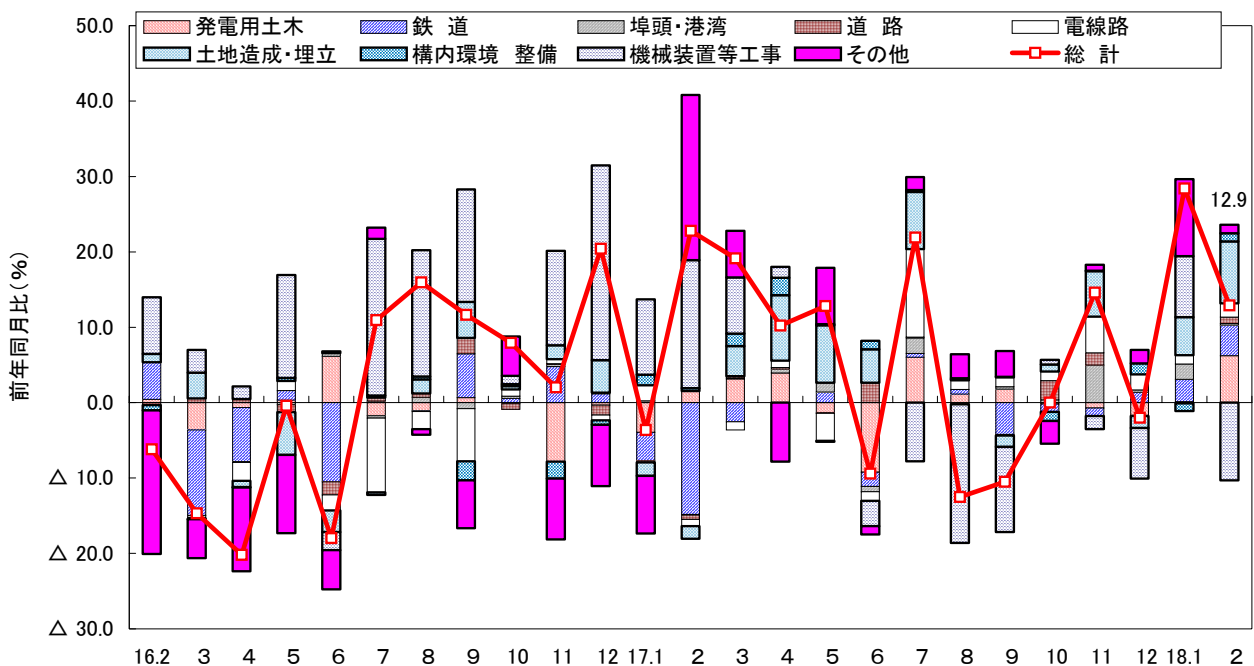
(5) 民間等からの受注工事（土木工事及び機械装置等工事）

2月の土木工事及び機械装置等の受注工事額（1件あたり500万円以上の工事が対象。以下同じ。）は2,494億円で、前年同月比12.9%増加（2ヶ月連続）した。

発注者別でみると、不動産業（前年同月比263.7%増、寄与度+9.0）、運輸業（同53.0%増、寄与度+7.0）等が増加し、製造業（同14.9%減、寄与度-5.1）、卸売・小売業（同53.8%減、寄与度-1.6）等が減少した。

工事種類別でみると、土地造成・埋立工事（寄与度+8.2）、発電用土木工事（寄与度+6.2）等が増加し、機械装置等工事（寄与度-10.3）、その他の土木工事（寄与度-0.2）が減少した。

民間等からの受注工事額の伸びと用途別寄与度

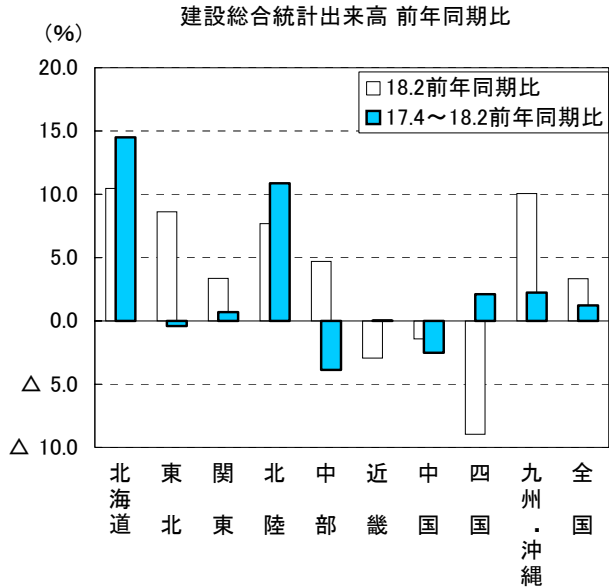
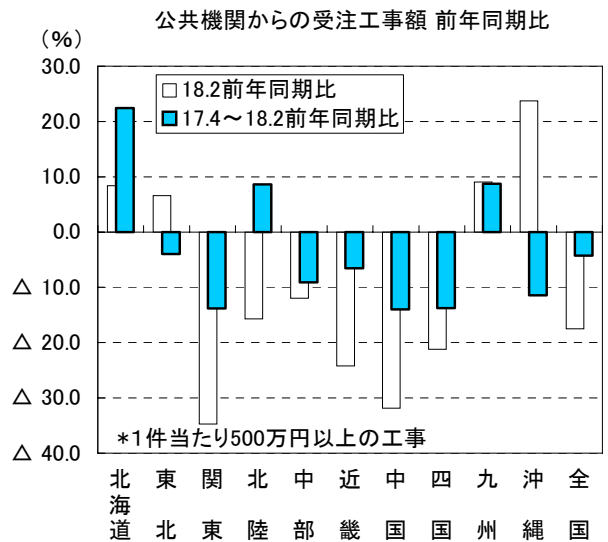
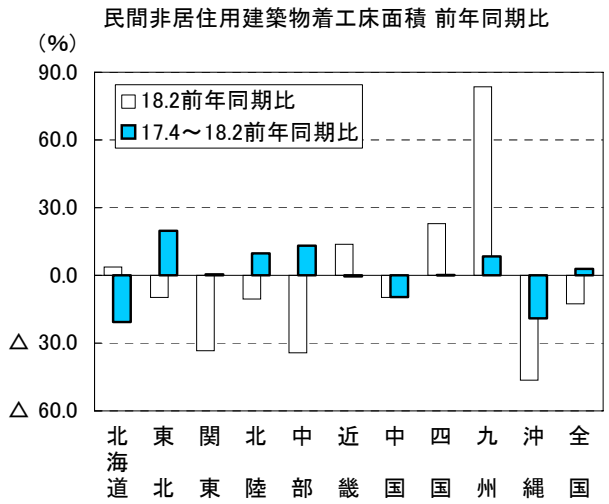
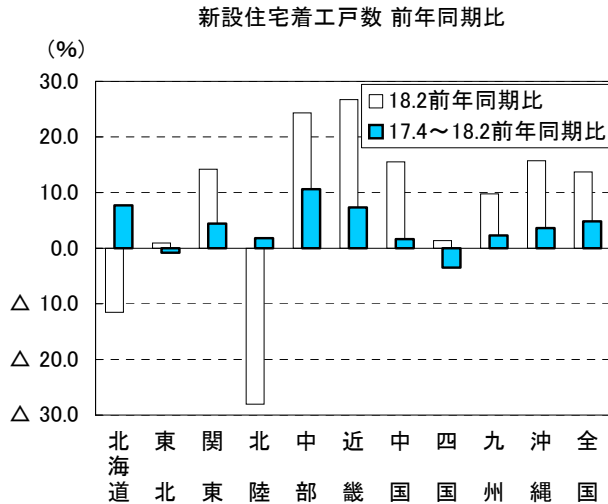


(対前年比、%)

		総計	発電用土木	鉄道	埠頭・港湾	道路	電線路	土地造成・埋立	構内環境整備	機械装置等工事
年	14年度	△ 10.6	△ 21.1	10.8	83.0	△ 25.4	△ 22.9	△ 38.4	△ 26.7	△ 8.9
	15	1.4	2.5	△ 8.2	△ 34.1	7.8	5.6	0.6	41.0	△ 1.7
	16	5.5	4.7	△ 11.4	4.6	△ 5.9	△ 15.2	7.8	△ 0.8	30.9
月	17年2月	22.8	84.3	△ 55.1	△ 9.7	△ 40.1	△ 7.6	△ 20.4	16.5	34.2
	3	19.1	72.5	△ 8.6	19.1	17.3	△ 13.3	61.6	124.3	20.0
	4	10.2	580.5	0.2	76.5	13.8	5.9	118.9	58.8	4.1
	5	12.8	△ 51.5	13.7	186.4	△ 3.9	△ 31.7	113.7	△ 2.6	0.4
	6	△ 9.4	△ 86.9	△ 12.2	△ 50.0	488.0	△ 9.3	79.8	41.6	△ 9.1
	7	21.9	370.6	4.2	271.8	7.3	91.6	103.9	6.5	△ 16.8
	8	△ 12.5	92.1	3.9	△ 0.8	△ 12.3	13.0	1.1	6.9	△ 36.3
	9	△ 10.5	95.8	△ 23.0	91.2	△ 6.0	15.3	△ 16.1	4.1	△ 25.7
	10	△ 0.0	△ 13.1	△ 7.5	36.1	399.9	8.4	13.9	△ 30.2	1.3
	11	14.6	△ 22.7	△ 5.8	705.2	116.1	42.0	92.6	3.0	△ 4.0
	12	△ 2.0	△ 54.3	10.9	44.8	△ 7.3	23.8	△ 17.4	60.6	△ 13.6
	18年1月	28.4	5.9	23.1	218.7	△ 10.1	6.4	79.5	△ 26.0	18.6
2	12.9	231.7	36.0	31.6	120.0	20.5	161.9	50.7	△ 19.4	
累計	4月～2月	4.6	19.8	1.2	118.7	50.1	17.4	51.3	12.1	△ 11.6

資料：国土交通省「建設工事受注動態統計調査」

(6) 地域別動向



区分 地域	投資	受注・着工				企業		労働			
	建設 総合 統計 4月~2月	公共機関	民間非 居住用 建築物	新設 住宅	民間等 受注 (土木・機械)	建設業 倒産 件数	建設技能 労働者不足率 (6職種計・原数値)		有効求人 倍率 (季調済)		
		受注 4月~2月	4月~2月	4月~2月	4月~2月		%	対前年増減	倍	対前月増減	
前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)	前年比 (%)	%	対前年増減	倍	対前月増減		
北海道	14.5	22.4	△ 20.6	7.7	18.0	47.7	△ 1.2	△ 0.8	0.60	0.00	
東北	△ 0.4	△ 4.0	19.7	△ 0.8	12.3	211.4	0.5	1.0	0.83	0.01	
関東	0.7	△ 13.8	0.4	4.4	△ 2.5	71.2	△ 0.3	△ 0.3	1.25	0.03	
北陸	10.9	8.6	9.7	1.8	△ 11.1	71.4	0.1	0.0	1.31	0.03	
中部	△ 3.9	△ 9.1	13.1	10.6	23.8	86.5	△ 0.5	△ 0.3	1.51	0.03	
近畿	0.0	△ 6.6	△ 0.4	7.3	10.0	53.3	3.1	2.2	1.02	0.01	
中国	△ 2.5	△ 14.0	△ 9.7	1.6	9.2	103.8	0.8	0.5	1.20	0.00	
四国	2.1	△ 13.8	0.1	△ 3.5	12.5	150.0	3.7	3.1	0.90	0.00	
九州	2.2	8.7	8.4	2.3	△ 7.1	98.2	1.2	1.3	0.74	0.00	
沖縄	—	△ 11.5	△ 19.1	3.6	20.7	62.5	0.0	0.0	0.46	0.03	
全国	1.2	△ 4.3	2.9	4.8	4.6	78.7	0.5	0.5	1.04	0.01	

注) 労働に関する指標の対前年比、対前月比の単位はポイント。

建設技能労働者不足率は、プラスは不足、マイナスは過剰を意味する。

建設総合統計の「九州」欄は、沖縄を含む値となっている。

建設業倒産件数は平成17年4月より集計対象変更のため単純比較はできない。参考値として掲載。